

東京交通新聞 2008年3月10日(月)

## <新橋駅・優良乗り場スタート>

### 個人タクシー番乗り

#### 初日「三つ星」アピール

昼間の個人タクシーの入構が不安視された新橋駅東口の優良タクシー乗り場が6日午前10時スタートした。最初の車両は個人タクシー。一般マスコミも多く詰め掛け、個人タクシーにとっては「三つ星」(マスター)をうまくPRできた格好だ。

1番目の車両となったのは、東個協葛飾第一支部の松浦利昭さん。この日が66歳の誕生日。午前7時ごろから新橋駅の一般乗り場に入構し営業していた。

優良乗り場の開始は協会から通知で知っていた。個人タクシー歴8年。普段は夜中心の営業だが「今回の優良乗り場開始を機会に昼間へシフトすることも考えている」と話す。前日に早めに営業を切り上げ初日に備えた。松浦さんは「最初のお客さんは近くの病院で800円だった。場所柄ロングは出ない。乗り場の回転がいいかどうか気になる」と話していた。

個人タクシー業界は6日、幹部が出て指導に当たった。東京タクシーセンター調べでは午前10時～翌午前1時台まで延べ176台の個人タクシーが入構(法人は298台)。業界は土日を除く5日間、入構台数を調べる。

#### 入構事業者に感謝表す手紙

入構事業者には都個協から「個人タクシーの模範」と書かれた原勇会長からの礼状が渡された。都個協によると、昼間入構に賛同した事業者はでんでん虫系・ちょうちん系合わせて約100人。入構した事業者が繰り返し営業し回数を重ねる形となった。

事業者からは「初日ということで来てみた」、「優良というが、当たり前のことをしていないということの裏返し。残念ともいえる」などの声が聞かれた。

乗り場の稼動状況を見た原都個協会長は個人タクシー業界の対応について「実際にどうなるか不安もある」としながらも「まずまずの滑り出しではないか」との見方を示した。同会長は「昼間の仕事をするのが全体の10%くらい。今回の優良乗り場の運用にあたって働きかけをしたところ、入構をしてくれると手を挙げてくれた人たちが約100人。昼間は周辺部で営業している人も多いため、都心部に入ってきてくれるかがカギだと思う」とする一方「夜の方が期待できる。きちんと多くの個人タクシーが入構するのではないか。利用者認知を得て利用してもらわないといけない。それには気持ちよく乗っていただくことが大切」としている。



乗り場オープンに当たり東京タクシーセンターがセレモニーを行った。第一号は三つ星個人タクシー。早速、利用者が乗車